

Robustness of Equilibria to Incomplete Information: Basic idea and a leading example

梶井厚志 京都大学経済研究所

Prepared for joint theory workshop at Otaru 060805

1 The email game:

プレイヤー2人：1 and 2,

それぞれ two actions, α and β , から一つ選ぶ.

ただし相手の選択はわからない

ゲームの利得環境は2つの可能性「Good」と「Bad」がある

“Good” のとき :

		2	
		α	β
1	α	1, 1	0, -100
	β	-100, 0	10, 10

注意点 :

- 2つのナッシュ均衡 : $\alpha\alpha$ and $\beta\beta$, しかし profile $\beta\beta$ は $\alpha\alpha$ よりも良い
- 一方 , α は “safer” な行動 : なぜなら , 相手が等確率で α あるいは β を選ぶときは , α で対抗する方がよい
(thus $\alpha\alpha$ is “risk dominant”)

一方 “Bad” のときは

		2	
		α	β
1	α	1, 1	0, -100
	β	-100, 0	-1, 10

注意点：

- Player 2 の利得環境は G のときと同一 .
- Player 1 にとって , α は dominant
- よって , $\alpha\alpha$ が唯一のナッシュ均衡

情報の構造：

- たいいてい状況はGなのであるが，運悪く condition B がごく小さな確率 ε (> 0) で起こることがあることが，両者ともに知られている．
- 一方，1はゲームの環境を知ることができる．すなわち，1はゲームがGであるかBであるかを知ったあとで自分の行動を選択できる．
- この事情は2もわかっているので，2人は連絡を取り合い，もしGならばよりよい均衡戦略を導く β をともに選択したい．
- そこで，1はstateがGであれば「Gですよ」と電子メールを自動的に発信することにした．

- 1 の立場からすると、メッセージが届いたかどうかを確認したい。そこで、2 も、メッセージを受け取ったら「メッセージ受け取りました」という確認メールを自動的に返すことにした。
- その後も、『「メッセージの受領確認」の受領確認』などを、自動的に送りあうことにした。
- ところが、迷惑メール設定が完全でないので、確率 δ でメッセージは自動的に消去される。ただし、 δ は非常に小さな数字である。

- さて , Player 2 は 100 のメッセージを受け取ったが , 101 回目の返信は来なかった .

問題 : Player 2 は β を選ぶべきだろうか

分析の前に一言：

- 一つでもメッセージが受け取られれば，両者ともにゲームがGであることを「知っている」はず
- よって論点は，相手が「自分が知っていることを知っているか」など，お互いの知識がなす構造が，どのような影響をもつのかということ

Conditional on state \mathbf{G} , which occurs with probability $(1 - \varepsilon)$,

- player 2 は email を確率 $(1 - \delta)$ で受け取るが、確率 δ で自動消去が起こって結果的にメールは一つも届かない
- player 1 には probability $(1 - \delta)^2$ でメールがくるが、確率 $\delta(1 - \delta)$ で自動消去。
 - 後者の場合、2はメールを受け取ったのだが、それが1に伝わらない。
- player 2 には probability $(1 - \delta)^3$ で2通目のメール、probability $\delta(1 - \delta)^2$ で自動消去
 - 後者の場合、1は2からのメールを受け取ったのだが、それが2に伝わらない。
- and so on....

これらの関係を以下のように表現しよう：

- ω = メールが発信された回数
- 状態空間 $\Omega = \{0, 1, 2, \dots\}$
 - $\omega = 0$ はゲームが B である（したがって、メールは発信されない）ことに対応．
 - $\omega = 1$: 1 がメールを発信するが、自動消去されたために 2 通目は発信されない
 - $\omega = 2$: 1 がメールを発信し、2 に届いたので自動返信、ところがそれが自動消去されたために 1 から発信されるべき 3 通目は発信されない

情報構造

プレイヤー 1 : $\mathcal{Q}_1 = \{\{0\}, \{1, 2\}, \{3, 4\}, \dots\}$;

プレイヤー 2 : $\mathcal{Q}_2 = \{\{0, 1\}, \{2, 3\}, \{4, 5\}, \dots\}$.

- たとえば , プレイヤー 1 は状態 1 と 2 は区別できない (どちらの場合も , 自分は 1 通しかメールを出していないから)
- しかし $\{1, 2\}$ なのか $\{3, 4\}$ なのかは区別できる . 前者はメールをちょうど 1 回だけ出したばあい , 後者はちょうど 2 回だけ出した場合

利得:

$$u_i(a_1, a_2, \omega) = g_i^G(a_1, a_2) \text{ for all } \omega \neq 0;$$

$$u_i(a_1, a_2, 0) = g_i^B(a_1, a_2)$$

分析:

- もし $\omega = 0$ であれば (どのような均衡においても) player 1 は支配戦略である α を選ぶ.
- player 2 の $\{0, 1\}$ での行動を考える: メールは届いていない.

- この状態になる確率は $\varepsilon + (1 - \varepsilon)\delta$ であり, メールが 1 通も届いていないという条件の下での条件付確率は **B** が $\frac{\varepsilon}{\varepsilon + (1 - \varepsilon)\delta}$ **G** が $\frac{(1 - \varepsilon)\delta}{\varepsilon + (1 - \varepsilon)\delta}$.
- player 1 は $\omega = 0$ のときには α を選ぶことは疑いない. これを勘案すれば, β を選択した場合の (条件付) 期待利得は, 最大でも:

$$-100 \times \frac{\varepsilon}{\varepsilon + (1 - \varepsilon)\delta} + 10 \times \frac{(1 - \varepsilon)\delta}{\varepsilon + (1 - \varepsilon)\delta}$$

- 一方で, α のほうは, 最悪でも

$$1 \times \frac{\varepsilon}{\varepsilon + (1 - \varepsilon)\delta} + 0 \times \frac{(1 - \varepsilon)\delta}{\varepsilon + (1 - \varepsilon)\delta}$$

- したがって、 $1 \times \frac{\varepsilon}{\varepsilon + (1-\varepsilon)\delta} + 0 \times \frac{(1-\varepsilon)\delta}{\varepsilon + (1-\varepsilon)\delta} > -100 \times \frac{\varepsilon}{\varepsilon + (1-\varepsilon)\delta} + 10 \times \frac{(1-\varepsilon)\delta}{\varepsilon + (1-\varepsilon)\delta}$ のときは、2 はどのような均衡においても、 α を選択しているはず。
- この不等式を整理すると：

$$\frac{101}{10} \frac{\varepsilon}{(1-\varepsilon)} > \delta \quad (1)$$

● 次に $\{1, 2\}$ でのプレイヤー 1 を考える。メールを送ったものの返事がない。

– * そもそもメールが届いていない条件付確率は $\frac{(1-\varepsilon)\delta}{(1-\varepsilon)\delta+(1-\varepsilon)(1-\delta)\delta} = \frac{1}{2-\delta}$

* メールは届いたが、確認メールが自動消去されてしまう条件付確率は

$$\frac{(1-\varepsilon)(1-\delta)\delta}{(1-\varepsilon)\delta+(1-\varepsilon)(1-\delta)\delta} = \frac{1-\delta}{2-\delta}$$

– 一方で、(1) が満たされていれば、 $\{0, 1\}$ において 2 は α をえらぶはず。

したがって、(1) が満たされている場合、 β を選んだときの条件付期待

利得は高々：

$$-100 \times \frac{1}{2-\delta} + 10 \times \frac{1-\delta}{2-\delta}$$

– それに対して α は最低でも

$$1 \times \frac{1}{2-\delta} + 0 \times \frac{1-\delta}{2-\delta}$$

– したがって

$$1 \times \frac{1}{2 - \delta} + 0 \times \frac{1 - \delta}{2 - \delta} > -100 \times \frac{1}{2 - \delta} + 10 \times \frac{1 - \delta}{2 - \delta}$$

これを整理して

$$1 > -100 + 10(1 - \delta) \quad (2)$$

であるなら, 1 は $\{1, 2\}$ において (どのような均衡においても) α を選ぶ

– しかし (2) は常に満たされている.

- 問題の再帰性から，同様な議論を繰り返すことができる．

結論：条件(1)が満たされるのならば，いかなる均衡においても， $\omega > 0$ において行動 α が選ばれる．

したがって，101回目のメールが届かなかったならば，迷わず β を選ぶべき！

つまり, state \mathbf{G} が level k of mutual knowledge, まで確認しあえたとしても, common knowledge ではないので, 安心して β を選べないのである

さて，上の議論で鍵となった条件式(1)を再度ながめると：

$$\frac{101}{10} \frac{\varepsilon}{(1 - \varepsilon)} > \delta$$

- 任意の $\varepsilon > 0$, にたいして，ある（小さな） δ が存在して (1) が成立する.
- つまり，the state **G** が起こる確率 $1 - \varepsilon$ がどれだけ 1 に近くとも，（ δ に代表される）ある情報構造が存在して，いかなる均衡においても $\beta\beta$ は選択されない.
- そこで， $\beta\beta$ は「情報構造に対して頑健ではない」といいたい.

Kajii and Morris (1997, Econometrica) proposed the following concept:

- Fix a complete information game (like, game \mathbf{G}).
- あるナッシュ均衡プロファイル a が *robust to incomplete information* であるとは、すべての nearby incomplete information game に、ある均衡が存在して、その均衡で選ばれる行動は a に近い。
 - “nearby” = same sets of players and actions. Same payoffs with probability close to one (ε is small - KM called such a game an ε -elaboration of the complete information game):
 - “behavior close to it” = induced action distributions are close

Why is this important?

- 完全情報ゲームは，分析のための abstraction かつ simplification of real world
- 「現場のプレイヤー」たちは，微妙な情報の構造をもっているかもしれないが，それは捨象される
 - 微妙な情報構造に影響されるとすると，分析者の予想と現場の行動に乖離
- 情報構造に関して頑健であるような均衡では，その心配がない

実はthe email exampleにおいて， α は頑健であるということを示すことができる．

- 直感を得るために，前と対称的に議論してみる．仮に $\{2(k-1), 2k-1\}$ において，2 が β を選択することが示せたとしよう．
- player 1 の $\{2k-1, 2k\}$ をみると，
- if he chooses α , payoff to action α is at most:

$$0 \times \frac{1}{2-\delta} + 1 \times \frac{1-\delta}{2-\delta}$$

– while β is at worst

$$10 \times \frac{1}{2-\delta} - 100 \times \frac{1-\delta}{2-\delta}$$

- これを整理すると、もしも $1 - \delta < 10 - 100(1 - \delta)$ であれば、 β を選ぶべき
- しかし、 δ が十分に小さければ、逆に $1 - \delta > 10 - 100(1 - \delta)$ となる。
- すなわち、nearby game において、この種の議論が成り立たない。

- 実際, $\omega = 0$ をのぞいて, α が選択されるという状況は, このゲームの均衡
- この場合, αa は確率 $1 - \varepsilon$ で生じるから, nearby game においては αa という行動に近い行動を生み出す均衡がある.
- 問題はもっと複雑: そのような“ αa ” 均衡が, どのような any nearby games にもあることを示さなければならない.
- K M の “critical path lemma”: もしも“ αa ” 均衡が存在しない nearby game があれば, 電子メールゲームと同様な情報構造をもつ nearby game で“ αa ” 均衡が存在しないものが存在することを示した

- 実際 , 均衡が情報に関して頑健であることは , 強い要求である . For instance, a strict Nash equilibrium (i.e. every player chooses a unique best response to each other) may not be robust. (different from refinement results)
- Some known sufficient conditions:
 1. If a complete information game has a unique correlated equilibrium, then it is robust.
 2. So called (p_1, \dots, p_I) -dominant equilibrium with $p_1 + \dots + p_I < 1$ is robust.
 3. For so called a “potential game”, a Nash equilibrium which maximizes the potential is robust

Formal definition (not to be covered in the talk)

- I players
- A_i : finite set of actions $A = \prod_i A_i$
- a complete information game $g = (g_i)_{i=1}^I$, $g_i : A \rightarrow \mathbb{R}$
- set of (countable) states Ω
- an incomplete information game: (u, P)
- Nearby incomplete information games:

An ε -elaboration is:

$$- P[\Omega_\varepsilon] = 1 - \varepsilon, \text{ where}$$

$$\Omega_\varepsilon \equiv \left\{ \begin{array}{l} \omega : u_i(a, \omega') = g_i(a) \\ \text{for } \forall a \in A, \omega' \in Q_i(\omega), i \in I \end{array} \right\}$$

– $E(\mathcal{G}, \varepsilon)$: the set of all ε -elaboration.

• Equilibrium of \mathcal{U}

– mixed strategy: Q_i -meas function $\sigma_i : \Omega \rightarrow \Delta(A_i)$.

– $\sigma = (\sigma_i)_{i \in \mathcal{I}}$ is a Bayesian Nash equilibrium if, for all $a_i \in A_i$ and $\omega \in \Omega$,

$$\begin{aligned} & \sum_{\omega' \in Q_i(\omega)} u_i(\sigma(\omega'), \omega') P[\omega' | Q_i(\omega)] \\ & \geq \sum_{\omega' \in Q_i(\omega)} u_i(\{a_i, \sigma_{-i}(\omega')\}, \omega') P[\omega' | Q_i(\omega)]. \end{aligned}$$

– equilibrium action distribution μ :

$$\mu(a) = \sum_{\omega \in \Omega} \sigma(a|\omega) P(\omega), \text{ for some equil. } \sigma$$

• Definition of Robustness

- measure closeness of behavior by:

$$\|\mu - \nu\| = \mathit{Max}_{a \in A} |\mu(a) - \nu(a)|$$

- action distribution μ is robust to incomplete information in \mathcal{G} if, for every $\delta > 0$, there exists $\bar{\varepsilon} > 0$ such that, for all $\varepsilon \leq \bar{\varepsilon}$, every $\mathcal{U} \in \mathbf{E}(\mathcal{G}, \varepsilon)$ has an equilibrium action distribution ν with $\|\mu - \nu\| \leq \delta$.